

子どもの遊びに“冒険”を

一橋大学 岡本ゼミ チームA

岩渕 智史 高橋 溪一郎 ○田中 喜規 武藤 光平 渡辺 賢人

1. 緒言

(1) はじめに

研究の背景として、「最近公園で遊ぶ子どもの姿を見なくなった。」という生活実感があり、そこから「子どもの体力・運動能力は低下しているのではないか？」といった疑問に至ったことが本研究の契機である。

運動能力と体力には正の相関があると考えられている。バランス感覚や自律神経系、免疫能力といった体力の向上は外遊びによって効果的に発達する。そして、就学後ではこれらの習得は難しい。その為、私たちは子どもの中でも未就学児にターゲットを選んだ。

また、外遊びは多くの子どもたちに与えられるものであり、遊び方を強制されることはない。その為、スポーツなどの運動よりも敷居は低く、より自発性を促すことができる。それゆえ、私たちは「子どもの体力・運動能力の向上」の手段としては外遊びの方がよりふさわしいと考えた。

2. 研究の方法・結果

(1)文献調査：子どもの体力・運動能力低下の現状とその原因に関する調査

(2)インタビュー調査：子どもの外遊びに関する調査

(3)文献調査：親の子育ての理解・認識に関する調査

以上の三つの調査を段階的に踏んでいくことで、「子どもの体力・運動能力改善」に対する提言に結び付ける。

表1：調査①文献調査

<p>目的：子どもの体力・運動能力の低下の現状とその原因</p> <p>データ元：文部科学省「子どもの体力・運動能力調査」(H26)</p> <p>「中央教育審議会(第24回)の資料」(H14)</p> <p>結果：子どもの体力・運動能力はいくつかの種目を除き、ピーク時の昭和60年頃と比べ、低い水準であることが分かった。原因は、(1)運動機会の減少 (2)生育環境の変化。</p>

この調査結果を踏まえて、原因の背景(真因)を考えてみると、「子どもの外遊びの減少(物理的課題)」は「親や社会の外遊びに対する理解・認識の低さ(精神的課題)」に影響を受けているのではないかという仮説に辿り着いた。外遊びの減少の原因として挙げられる「三間の減少」(現在の子どもたちには「時間」、「空間」、「仲間」が減少していること)も、その背景にあるのは、親の外遊びに関する理解・認識の低さによるものだと考えられる。

ここまですを踏まえて、私たちが解決に向けて必要だと感じたのは、
 ア. 親の外遊びの認識を転換できるきっかけを与えられる場所(精神的課題の解消)
 イ. それに伴う需要を満たす子どもがのびのび遊べる魅力的な遊び場(物理的課題の解消)
 の2点である。この2点を満たす場所として、私たちは『プレーパーク、別名冒険遊び場
 (以下、プレーパーク)』(注1)に注目した。

そして、プレーパークの現状や私たちのテーマである「子どもの体力・運動能力の低下」
 の改善に効果があるのかについてインタビュー調査を行った。(下表2)

表2：調査②インタビュー調査

<p>目的：プレーパークの現状、課題、外遊びの現場の声の把握</p> <p>インタビュー先：7月5日 日本冒険遊び場づくり協会&プレーパークせたがや(NPO法人) 9月8日 冒険遊び場の会(認定NPO法人)</p> <p>得られた知見：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもを取り巻く現状に禁止事項が多い中、子どもの自主性、主体性を重んじるプレーパークは、文字通り最後の砦。数は増加傾向(現在約400カ所存在)にある。 (2) 外遊びは神経系の統合が自然に図られ、体力の向上につながる。 (3) プレーパークが全国的に普及すれば子どもの体力向上は間違いない(日本冒険遊び場づくり協会事務統括理事 天野秀昭氏談)。 (4) プレーパークは利用者＝管理者で運営されている。“みんなの公園”という意識。そのため、保護者の満足度が高く、責任問題になりにくい。 (5) 外遊びの減少は、親の外遊びに対する相対的な重要度の低さの結果である。 (6) コストの問題もあるが最大の課題は知名度の低さ。

インタビュー調査を踏まえると、プレーパークが全国的に普及していくと、子どもの体力・運動能力の改善は図られるが、そこには知名度が低いという課題であるということが考えられる。仮説にもある「親の外遊びに対する理解・認識の低さ」がその理由である。

知名度向上の切り札として私たちが考えたのは、既存のプレーパークの「遊び場」としての機能に、子育ての情報を媒介とする「リアルのコミュニティの場」という新機能を意識的に付加していくことである。以下は、それに関する文献調査である。(表3)

表3：調査③文献調査

<p>目的：親の子育てに関する理解・認識の把握</p> <p>データ元：日本労働組合連合会「子ども・子育てに関する調査」(2013年)</p> <p>結果：(1)子どもを持つことに対する意識調査で、まだ子どもがおらず、欲しくないと回答した20代の約6割が理由として「ちゃんと育てる自信がない」と回答。</p> <p>(2)子育てで配偶者に望むことに関する調査で、女性側は男性側に対し、半数近くが、「子育てについて積極的に考えてほしい」、と回答。(下図1)</p>

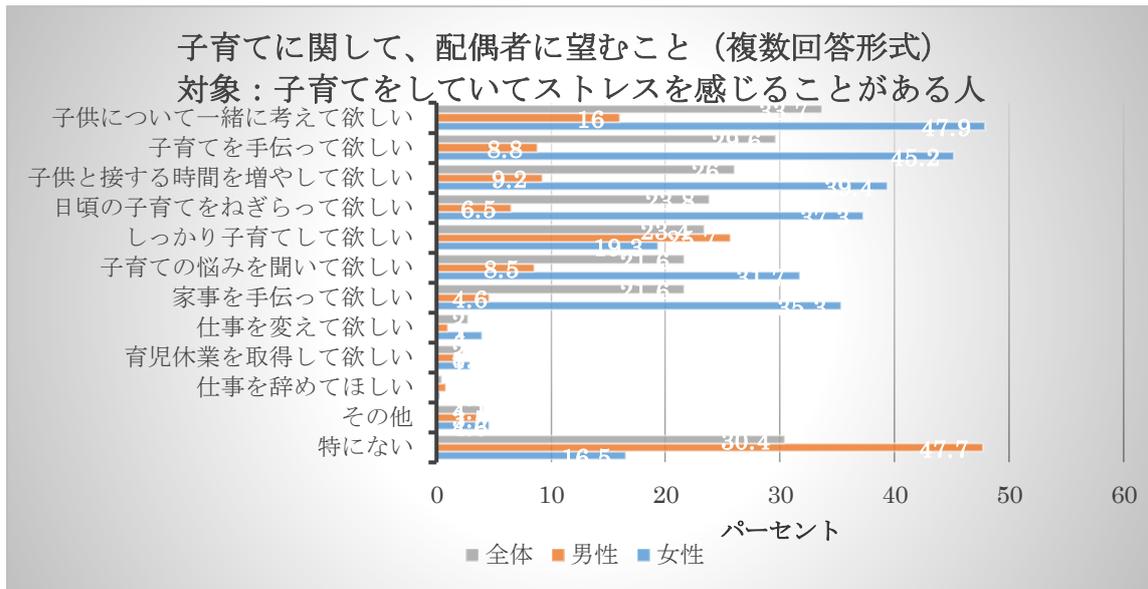


図1：日本労働組合連合会「子ども・子育てに関する調査」（2013年）より作成

3. 提言

(1) 提言概要

プレーパークのコミュニティ機能を高め、親の理解・認識を高めることによる子どもの運動能力・体力向上に関する提言を行う。提言先としては各プレーパーク。特に、プレーパーク事業に取り組んでいない自治体の場合、自治体とする。

ア. 現在の未就学児を持つ親世代(短期的な政策)

- ・「ママパパ子育て会」を開催(コミュニティ参加のきっかけづくり)

調査③から、主婦側の夫の育児参加に関するニーズは高いことがわかるにも関わらず、夫婦参加型の育児イベントは少ない。そこで、家族でプレーパークに遊びに来る機会をプレーパーク側が企画し、親や子ども同士の触れ合いを通して、子育てや外遊びに対する意識を高めてもらう。また地域の同年代の子どもを持つ親同士の交流を深めてもらう。

- ・「ママ歴、パパ歴制度」を導入

現在のコミュニティは幅広い世代で構成されていて、細分化が出来ていない。一番上の子どもの年齢=ママ(パパ)歴として、親の層を細分化することで、付き合いが長くなる可能性のある同年代の子どもを持つ親との交流を促進でき、逆に上下の世代間イベントが開催しやすくなる。育児に心もとない新米ママはこうした企画を通じその不安も解消できる。

イ. 将来の親世代(長期的な政策)

- ・「ボランティア実習」の派遣先にプレーパークを加えてもらう

授業の一環としてボランティア実習という授業を開講している大学がある。実習先にボ

ランティアに行くことで単位を取得できるというものである。この実習先にプレーパークを位置づける。実習により、学生は外遊びに関する知識を身につけるだけでなく、子育てのリアルな現場、親子の外遊びの様子を目の当たりにすることで学生のうちから、結婚や子育てに関して考えるきっかけにもなる。こうした施策に伴い、プレーパーク事業により大きな関心を抱いてもらい、将来的なコミュニティへの参加、またプレーパーク内の学生、親、近隣住民間の地域コミュニティの形成が予測される。こうしたことでプレーパークの人手不足の解消、良いイメージの付与にも効果を発揮するのではないかと期待できる。

(2) まとめ

この提言により、プレーパークの強化が図られることで、遊び場を求める親だけでなく、現実世界にコミュニティを求める親がプレーパークに参加するようになる。そして、外遊びの理解・認識を高めること(精神的課題の解消)で、就学後もプレーパークや既存の公園で子どもを遊ばせるインセンティブを高めることにもつながる。これにより運動機会の向上が期待でき(物理的課題の解消)、子どもの体力・運動能力の改善が図られる。プレーパークの数が増えればその分だけ効果は見込めると考えられる。最終的には今後のプレーパークの拡大、そしてそれに伴う子どもの体力・運動能力の飛躍的改善を期待したい。

注 1) プレーパークとは？

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした遊び場である。子どもたちの好奇心を大切に、自由にやりたいことができる遊び場を作ろうということで、1940年(昭和15年)以降ヨーロッパを中心に広がった。

このプレーパークに駐在するスタッフをプレーリーダーと言い、様々な役割がある。

- 遊びを見守り、子どもがけがをしたり困ったりしたときに、対応する人
- 子どもの目線に立ち、子どもたちと対等にぶつかり合う大人
- 子どもの言葉にならない思いを周りの大人に伝える“代弁者”

<参考文献>

特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会 HP

<http://bouken-asobiba.org/>

日本労働組合連合会「子ども・子育てに関する調査」(2013年)

<http://www.jtuc-rengo.or.jp/news/chousa/data/20130621.pdf>

文部科学省「子どもの体力・運動能力調査」(H26)

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1362690.htm

文部科学省「中央教育審議会(第24回)の資料」(H14)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001a.htm